

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

○スクールミッション

総合型高等学校として、夢と自尊心を持ち、堺伝統を継承させながら、普遍的な知識と汎用的技能を総合的に身に付け、時代の変化に合わせて積極的に社会に参画し、論理的思考力と倫理観を持って新しい社会を創造していく資質を有する人材を育成

○ 令和6年度 重点目標

未来を担う子どもたちに必要となる資質・能力を育み、子どもたちの可能性を引き出すために、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実をめざし、授業改善やカリキュラムの改善に向けた取組み、より高い進路目標を達成するように学校組織としての教育力をさらに向上し指導する。

確かな学びの現状

○本校は「サイエンス」「機械材料」「建築インテリア」「マネジメント」の4つの専門学科があり、各学科の生徒が互いに切磋琢磨しながら、自己の伸長をはかりつつある。

○進学においては一般入試の4年生大学合格者数が増えつあり、特にサイエンス創造科上位の生徒は、大学入試センター試験を受験して国公立大学に挑戦している者もいる。

○高校卒業時には99%の生徒が進路を決定し、学校紹介による就職希望者においては決定率100%を維持し続けている。

豊かな心・健やかな体の現状

○社会に出て通用する人材の育成をモットーとし、特に「基本的な生活習慣」「マナー」「身だしなみ」の指導を重視しており、これらについては来校者からも一定の評価を得ている。

○地域貢献の観点から地元地域、教育委員会等に施設貸出を積極的に行っており、また、地域のイベント等にも生徒会やクラブ員が積極的に参加している。在校生の約70%が堺市立中学校出身であり、今後も堺市立の唯一の高等学校として、地域に密着した学校をめざす。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (~10月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かに か な 学 び	学力の向上	○希望する進路先を決定し合格できる学力をつける	希望する進路に決定した生徒の割合および分析 一般入試での大学合格者数の増加及び学習のサポート	卒業時、全員が進路決定できることをめざす	キャリア支援部からの報告による評価	学年末	○ 大学への進路は指定校などを利用し、順調に進んでいる。就職は1次で合格率93%合格した。	○ 国公立大学1名、関関同立3名、攝神追桃12名、その他の四年生大学に67名が合格した。就職希望者の内定率は100%を達成することができた。	○	概ね達成している
	国際理解教育	○国際理解を深め、国際感覚を醸成する	海外への訪問をはじめ、諸外国からの訪問受け入れオンラインによる交流などの国際交流事業を充実させる	アンケートの「国際交流が盛んにおこなわれている」において、満足度7割以上	国際交流委員会からの報告により評価	学年末	○ アセアン地域の大学とのオンラインでの交流、台湾への短期海外研修を実施予定	○ 海外の高校生との交流はネットを活用し、アセアン地域の大学生との交流した。台湾への短期海外研修を実施した。	○	
	専門性の向上による ブランド力の強化	○高大連携、企業連携、堺市を核とする諸施設・諸団体との連携 ○学校内外において高度な専門知識・技術・技能を習得させる	各大学・研究団体等のコンクールへの積極的な参加 専門性の高い資格取得や検定への挑戦	各種コンクール等における入選 検定合格者・資格取得者数(延べ人数)を増加させる	学科長からの報告による評価	学年末	○ ロボット相撲全国大会決勝トーナメント進出 ものづくりコンテスト木材加工部門近畿大会出場	○ 剣道部が大阪で4位に入り、近畿選抜大会に出場した。他のクラブにおいても全国大会での活躍があった。複数の生徒が技能士2級(建築大工)を取得した。	○	
	進路実現	○四年制大学指定校推薦枠を確保する ○多くの求人件数を確保し就職を希望する生徒の進路を保障する	大学入試センターからの情報収集 指定校推薦枠の増加 企業採用部署との密な連絡 求人件数及び内定数による企業分析 生徒・保護者年度末アンケート結果の分析	進路指導に対しての生徒及び保護者の肯定的評価の割合8割以上(年度末アンケートによる) 就職試験の一次内定率90%以上	キャリア支援部からの報告による評価	学年末	○ 大学指定校推薦枠数について、関西大学から1名であった。 求人件数は12月末時点まで1556件であり内定校求人は571件であった。	○ 生徒及び保護者アンケートで「堺高校の進路指導に満足している」の質問に対して、80%以上が肯定的評価であり、目標を達成することができた。	◎	
	授業改善等	○生徒が主体的・対話的な深い学びに向かう授業を探求し、学力の向上を図る ○体育祭等の行事の検討	教師間による授業公開を年2回実施 市立体育館による体育祭の検討	アンケートの授業満足度8割以上	担当者からの報告による評価	学年末	○ 授業力の向上に向けて、お互いの授業を見学を実施予定	○ 生徒及び保護者アンケートで授業満足度の質問に対して、80%以上が肯定的評価であり、目標を達成することができた。	○	
豊かな心・健やかな体	基本的生活習慣の確立	○教職員が登下校指導や授業開始時などの挨拶を行い、自ら挨拶ができる生徒を育てる ○日常の生活ルールを身につけさせる	自ら挨拶ができるよう生徒への啓発 朝読書の定着率、遅刻者数、懲戒件数の改善に向けた検討・分析 生徒・保護者年度末アンケート結果の分析	生徒全員が来校者、教職員に対して自ら挨拶ができる 朝読書全クラス完全実施 遅刻者数1日当たり3名未満 生徒指導に対しての生徒及び保護者の肯定的評価の割合8割以上(年度末アンケートによる)	学校生活部からの報告による評価	学年末	○ 自ら進んで挨拶をする生徒が増えてきた。教職員側も積極的に挨拶をする雰囲気が出てきた。	○ 生徒及び保護者アンケートで生徒指導の質問に対して、概ね80%が肯定的評価であり、目標を達成することができた。	○	概ね達成している
	いじめ防止対策家庭との連携	○いじめの未然防止および組織的対応 ○学年団組織の強化	教育相談体制の強化(SCだけでなく教員も相談の窓口となる) 人権通信「こころ」の発行(年3回以上) 学年主任を中心とした学年団のチーム力を強化 問題事象に対して学年として取り組む体制を構築	年3回実施のいじめアンケートからいじめの事案が出てくることを未然に防ぐ。 保護者アンケートの「保護者と連絡を密にとってくれる」の肯定的評価6割以上。	学校生活部からの報告による評価	学年末	○ 学年主任、生徒指導主任、人権主査が中心となって、問題事象が起きたときに迅速に対応できる体制が整っている。	○ 保護者アンケートで「保護者と連絡を密にとってくれる」の質問に対して、68%が肯定的評価であり、目標を達成することができた。	○	
	教職員の働き方改革への取り組み	○教職員の時間外滞在時間の減少 ○生成AIの活用	ノークラブデーの定着 定時退勤日の慣習化 月平均時間外在場時間の改善	教職員の時間外滞在時間減	出退勤システムの数値による評価	学年末	○ 教職員一人ひとりの働き方に対する意識は高まっている。	○ 様々な取り組みの中で目標を達成することができた	○	
堺高校の認知度の向上	説明会の開催	○認知度の再構築を図るために広報活動の重要性を教職員が認識し積極的に説明会や行事等に参加する	塾等主催の各種説明会(年4回以上)及び各中学校単位の説明会への参加(年20校以上)	入学者選抜において第一志望だけで4学科とも募集人員を上回る	担当者からの報告による評価	学年末	△ 学校説明会、オープンスクールへの、べ参加者数についてで411人であった。	△ 塾等が主催している説明会への参加をした。個別対応での来校者が多く、来校された方のほとんどが受験をされていた。一般入試では、建築インテリア創造科とマネジメント創造科は定員に達することができた。	△	概ね達成している
			オープンスクール、学校説明会、個別説明会の参加の呼びかけ	中学生のべ参加者数名400名以上(昨年度446名)	総務部からの報告による評価	学年末	△ ホームページ閲覧数は一日当たり目標の平均336件に達した。今後も本校の取り組みを発信していきたい。	△ ホームページ閲覧数は1日平均300件を超える、本校生徒の様子を十分にPRできた。	△	
	ホームページの充実	○本校における授業風景や各学科の特色ある様々な取り組みを発信し知名度を上げる	各教員が授業・行事ごとに記事を作成し頻繁に更新を行う	1日あたりの平均閲覧数300件以上(昨年度310件)	担当者からの報告による評価	学年末	○ 中学校への進路説明会等へは26校(昨年度24校)参加した。堺シティマラソンなどの参加および近隣のこども園に遊具を寄贈など、地域連携はできたと思われる。	○ 中学校への進路説明会等へは26校(昨年度24校)参加した。堺シティマラソンなどの参加および近隣のこども園に遊具を寄贈など、地域連携はできたと思われる。	○	概ね達成している
地域連携	○縦につながる教育の実施 ○地域の活動等への参加	幼・保・小・中との連携活動 参加行事(授業参観、体育祭、文化祭への参加など)の機会を設定 地域の各種イベントへの積極的な参加	近隣の子ども園・小学校との交流 堺シティマラソンや仁徳陵をまもり隊等への参加 市内中学校進路説明会や出前授業などの昨年度実績を上回る	担当者からの報告による評価	学年末					

校長より(年度末)

中学生の受験希望者増を図るべく、学校説明会やオープンスクール、塾主催などの外部の説明会など様々な取り組みを積極的に行なった。また教員対象のオープンスクールを実施した。今後、ホームページによる学校のさらなる魅力発信やパンフレットの刷新など、新たな取り組みを積極的に行なう。多様な生徒が積極的に学べるようなカリキュラムを構築し、教職員とともに学校のめざすべき方向を検討していく。また、各教科に特色ある取り組みを入れながら教員の経営参画意識の向上と生徒の能動的な学びの展開を図っていく。

生成AIパイロット校として2年が過ぎ、次年度に向けて研究を重ね校務改善や授業改善に努めていく。

地域連携や外部コンテスト・資格取得についても機会をとらえて、保護者や地域の方の協力を得ながら教員・生徒のモチベーションアップを図り、学校力向上に努める。

学校関係者評価者から(年度末)

学校から様々な業種の会社や学校への見学ができ、また幅広い分野の進学先や就職先があり、進路選択の幅が広がってよかったです。これからも社会の宝となる人材の育成をお願いいたします。

本年度は体育祭が大浜体育館で行われ、生徒たちにとっても保護者にとってもいい環境で実施でき大成功だったと感じました。次年度以降もお願いいたします。